神戸西部支部

神戸西部支部は、神戸常磐大学、神戸市立医療センター西市民病院、東落合住宅、まいこ会館、狩口台住宅、井吹台セリオホール、神戸市看護大学、兵庫県立総合リハビリテーションセンターの13拠点と、出前隊としての活動を予定していました。

西部支部のなかでも「まいこ会館」「狩口台住宅」は、運営してくださる地域住民によって、私たちの活動を支えていただいています。開催を心待ちにされている方も多くいらっしゃることは過去の実績報告から見て取れます。このような状況の中、「まちの保健室」開催については、支部委員会においても様々な意見をもとに、令和2年7月以降、神戸市看護大学以外はすべての拠点において活動を休止しました。

狩口台住宅では、「まちの保健室」の運営に関わられている住民の方と、開催するための対策をについて相談させていただきました。開催するためには3密を回避するということが重要で、来所者の制限を行う必要がありました。開催時には70名を超える方が「まちの保健室」を楽しみに来所され、活動時間は2時間半を要します。

開催することを目的とすれば人数を抑えて実績を積むことができますが、それでは「まちの保健室」の意義に反すると考えました。地域担当の方とも何度か話し合い、今年度の開催は中止とさせていただきました。

間もなく新型コロナウイルスワクチンの接種がはじまります。医療従事者から始まり、持病のある方、高齢者の方と続いていきます。最近でのネットニュースで新型コロナウイルス感染症は、ドアノブやテーブルなどを触ったことによる接触感染は0.05%と言われています。人々がマスクを正しく着用し、手指消毒、感染対策をすれば活動の再開ができると考えます。「まちの保健室」は地域で暮らす高齢者や、普段病院に行かない人々にとって、とても重要な役割を担っています。

神戸市看護大学は、こころと身体の看護相談、もの忘れ看護相談、子育て支援、健康支援の4つの活動をしています。新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、一時はすべての活動を中止していましたが、感染予防策を講じやすい活動から再開しました。

「こころと身体の看護相談」は、月に1回、ユニティという施設で行っています。リピーターから再開のお問い合わせをいただくことが増えたこと、予約制の個別相談のため感染予防策が取りやすいことから、6月から再開することができました。

「もの忘れ看護相談」は、今年度は5月から行う予定でしたが、予定を変更して7月から年に4回行っている活動を再開しました。これまでは予約制ではありませんでしたが、ミニ講義や個別相談ともに人数の上限を決めて予約制としました。参加者からは、熱心に質問やご相談をいただくことができ、このような状況だからこその相談も多く、開催する意義を感じました。

「子育て支援」は、従来は対面で育児相談や子どもの身体測定等をしていましたが、11月から実施方法を変更し、オンラインでの育児相談を開始しました。

「健康支援」は、今年度は5回の活動を予定していましたが、そのほとんどは中止せざるを得ない状況でした。感染状況が少し落ち着いた10月に、「生活体力を測ってみませんか？」という活動を1回行うことができました。例年80名前後の方々にご参加いただき、また測定は地域の方々にご協力いただいて実施していますが、今年度は参加人数を例年の半数まで制限し、測定は学生と教員で実施し、参加者の動線を細かく決める等、密にならないように実施しました。大学は、他の地区活動に比べて感染予防策が取りやすい環境であり、事前の準備や調整に時間がかけられたこと、人数制限はもちろん本意ではありませんでしたが、活動の再開がしやすかったと思います。今後も神戸西部支部の他の拠点や地域の方々と協力しながら活動を継続していきたいと思います。

測定後　相談の様子

体力測定